

No. 2 8 3 5







花を求めて最果ての島へ 利尻山・礼文島

実施日 2017年6月23日(金)~28日(水)

天候 曇まれに晴れ、雨

リーダー 濱田 優美子


参加者 石附智江、中村友子、伊藤久雄
(~26日)、宇野輝代、濱田優美子、峯川弘子 計6名

費用 航空機50,980円、 (稚内ー利尻)2,030円、(利尻ー礼文)800円、(礼文ー稚内)2,260円、 3回1,212円、燃料G364円、 場ロッジ3泊5,000円、温泉500円、 100円、携帯^{充電器} 400円(1個)、民宿18,910円(2泊)、 5,310(6回)円 合計88,543円
(うに丼4,500円、海鮮ラーメン2,000円、他食費(4~5回)、お土産代など)

タイム 6/23 宗谷岬観光

6/24 停滞 姫沼観光

伊藤 薄雪草群生地~桃岩展望台~香深^{ターミナル}(10:15)礼文林道元地口(10:50)レンジャーハウス(11:20)礼文林道元地口(11:55)桃岩入り口(12:00)桃岩(12:17)ツバメ山(12:50)元地灯台(13:00)北のカリアパーク(13:53)香深港(14:18)

6/25 北麓野営場(4:40)ホーン山姫沼分岐(甘露泉水)(4:50~4:55)4合目(5:25)5合目手前(5:45~5:55)5合目(6:10)6合目(6:35) (6:4

0~6:50)7合目(7:07)第2見晴台(7:45~7:50)8合目トイレ(8:25~8:30)9合目(9:10~9:25)休憩(10:10~10:12)利尻山頂(10:30~11:13)昼食)9合目トイレ(12:00~12:10)8合目(12:30~12:35)7合目(1:25~1:28)トイレ^{バス}(1:45~1:50)5合目(2:15)4合目(2:50)姫沼分岐(甘露仙水)(3:25)3合目北麓野営場(3:35)


6/26 Aグループ 桃岩展望台

香深^{ターミナル}(10:05)(宿の車)桃岩登山口手前(10:45)桃岩展望台(11:15~11:55)昼食)キンハイの谷(通過)元地灯台(1:40)北のカリアパーク(2:45~3:20)宿(4:20)

Bグループ 礼文岳登山

香深BS(10:45)礼文岳登山口(11:10~11:20)廃道合流点→ニセビーク→礼文岳山頂(13:20~14:10)ニセビーク→廃道合流点→登山口(15:20)

6/27 岬めぐりコース

香深^{ターミナル}(7:45)スコトン岬(8:41~9:10)ゴロタ岬(10:30~10:40)鉄府(12:10)西上泊(12:40)澄海岬(12:45~1:15)西上泊(1:20~1:30)浜中(2:30~2:45)船泊(3:30~4:15)()病院前(4:50)

6/28 ノシャップ岬観光

6/23 1時間近く飛行機の到着が遅れたが、宗谷岬経由のバスが待っていてくれたので飛び乗った。宗谷岬は丘陵地帯の先にあり、のびやかで雄大な風景が広がっていた。キタキツネにも会い、満足。

フェリーターミナルで宗谷岬観光に行かなかった中村さん、宇野さんと合流し、いよいよ利尻

へ。フェリーから少しかすんではいたが、利尻山の雄姿がみえ



ると、これから登る山への期待と緊張が自然と高まる。天気と相談した結果、明日は停滞することとした。

6/24 朝4時。天気は曇。続々と登山者が登って行く。判断を間違ったか？と不安になるが、すでに遅し。礼文に歩きに行った伊藤さんを除き、街へ出かける。途中、姫沼経由で街へ行く。うに丼を食べよう！と意気込んで行ったが、何と4,500円もする！あっちの店が4,000円だったよ。ということでそちらの店へ。ところが、「今日は馬糞ウニが上がってないから、ムラサキウニしかない。」という話。せっかく座り、水も出してもらいながら、「それじゃ止める。」と立ち上がる



ところは、そこは女5人のオバタリアン集団。元の店に戻り、清水(キヨミズ)から飛び下りたつもりで大奮発。途中温泉に入り、早々に就寝する。

伊藤 レブンウスユキソウを見るために香深港フェリーターミナルから車道を歩き始める。早くも脇道や雑草の中、道路脇にミヤマオダマキやレブンシオガマなど高山植物が咲き乱れている。

時折霧雨が降るきつい勾配の車道をしばらく登って行くと礼文林道コースの元



地口に着く。なだらかな林道を歩いているとチシマフウロ、ハクサンチドリ、ミヤマオダマキ、

ネムロシオガマ等の花が見られる様になる。レンジャーハウスまで行ったがレブンウスユキソウが2~3か所しか咲いていない。まだ少し早いようである。

暫く礼文滝入り口方面へ歩いたが無かったので引き返す。礼文林道元地口まで戻り車道を歩いて行くと桃岩へ行く道に分岐する。遠目と霧の中、標識に10キロとありドキッとしたが近づいてみると1.0キロ

でホットした。5分ぐらい登ると桃岩展望、キンバイの谷、ツバメ山、元地灯台へと続く道



に1時間余りに渡ってオオカモチ、ネムロシオガマ、レブンキンバイソウ、チシマフウロ、ハクサンチドリ、ミヤマキンポウゲなどのお花畑が延々と続く。残念ながら霧で景色は全く見えない。差閉へ下山途中吉永小百合さん主演の北のカナリアパークのロケ地に寄る。天気が良ければドーンと目の前に利尻山が見えるのだが。運よくタクシーが呼べ、時間が取れたので港の近くの「うすゆきの湯」に寄り汗を流してからフェリーで利尻に戻った。正に礼文島は花の島だった。

6/25 朝3時。ざあざあ雨。出発を4時半に遅らせると、雨は止み、しずくが垂れるので、合羽を着て出発。名仙「甘露泉水」で水を酌み、4合目、5合目。道はそれほど急でもなく、非常に歩きやすい。6合目、7合目。次第に木





の丈が短くなってくる。雲が切れ、これから登る8合目近くまでの稜線が目に入る。

やっほ！満足感がぐんと高まる。8合目を超えるとハクサンチドリが登山道の両脇に咲き、苦しい登りを慰めてくれる。いよいよ「これからが正念場」と言われる9合目。うわさのざれ場は、完璧に階段が作られており、これのおかげで予定より早い10



時30分に登頂に成功！風も止み、何と晴れ間も出て、わずかな時間だったが、雲

海を下にはるかかなたまで見通すことが出来た。頂上付近では、ローソク岩の岩肌の緑にハクサンチドリとキバナ芍薬の白がなんとも美しい。昨日登った人は、ずっと真っ白だったという話を聞いていたので、今日に延期したことに大満足。のんびりと山頂でお昼を食べる。



午後、雲があがることはなく、下山中は遠景を望むことはできなかった。下に行くにつれ霧雨になり、合羽を再び着、そこそこ濡れてキャンプ場に戻ったのは3時30分。雨模様で座って休みにくかったというのもあったが、それぞれ5分や2~3分の休みであとはずっ



と歩き通すことが出来、予定より1時間も早く下山することが出来たのは皆の普段からの鍛錬のたまもので、ここに来るまでのその努力をたたえたいと思う。

6/26 Aグループ 桃岩展望台コース

先に帰る伊藤さんを送り、礼文島へ。利尻山は姿を見せない。今日は、桃岩展望台コースを歩く予定だったが、礼文岳に登りたいという峯川さんと宇野さんは別行動をすることとなった。



桃岩チームは宿の車を下りた早々花の歓迎。

登るにつれ花の数は増し、桃岩展望台はその豪快な風景の中に、緑と花畑が素晴らしい。満開のお花畑。チシマフウロのむらさき。ししウドの白は一面で、そこに礼文キンバイとミヤマキンポウゲの黄色。先代萩の黄色。イブキトラノオの薄桃色。そこに時々ある根室シオガマのピンクがひととき目立つ。一歩歩いては写真を取り、また歩いては写真を取り、のんびりゆっくり歩いていると、天気も上がってきて、海の色もブルーに変わり、利尻山も頭を出し、今回の旅で最も天気



のいい時間帯となった。一番きれいなところで一番天気がよく、一番きれいな色で景色を見

れたことは、何と運のいいことか。満足感は限りなく高い。

まもなく北のカナリアパーク到着。ここからの景色は遮るものなく利尻島が正面に見えるということで、確かに柴の緑を手前に、赤い屋根の小学校、ブルーの海。向こうに利尻島という構図は、一枚

の絵になった。礼文岳に登りたかったかもしれないのに、リーダーについてきてくださったお二人に感謝。

Bグループ 礼文岳登山

標高490mの山ですが、バス停付近の海拔は2m、標高ほぼ0mからのスタートです。

登山道にどこまでも続くマイズルソウ・ゴゼンタチバナの大群落、本土の山



ではありえない光景に思わず興奮！わずかに490mなのにニセピークからは、日本アルプスでみるような森林限界にあるハイマツ帯があらわれ、さすが北の山だと感激！



明日歩く予定のスコトン岬、ゴロタ岬がくっきり見え、下山中には昨日登った利尻富士もちょっぴり顔を見せてくれ最北端の絶景に後ろ髪を引かれながら下山しました。

6/27 曇。岬めぐりコース

スコトン岬でバスを下り出発。昨日の桃岩コースの凝縮した美しさとはまた違って、大地の大きさをを感じるコースだ。岬からの長く続く広大な丘陵地帯と、勇壮な海岸線の連続、そこに咲く花々たち。コースのハイライト



はスコトン岬からゴロタ岬。昨日覚えた花の名の復習をしながら歩く。残念ながら天気は下り坂。今日は晴れ間は覗くことなく、スカイ岬に着くころには、霧雨模様になっていた。順調に歩き、1時間半前にバス停に到着。ひまつぶしに歩いてく歩くとコーヒーショップがあったの



で、そこでバスを待つことにした。ビールもあるということで、のんべえたちはビールを注文。するとマスター

が、「ビールのつまみに」ということで、なっ、なんと、捕れたての牡丹エビをどさんとごちそうしてくれた。最後の抵抗をした生きている海老に、中村さんが「ギャッ」と悲鳴を上げる。まだ身の透き通ったぷりぷりのエビを皆で堪能した。

6/28 曇。最後の観光ノシャブ岬

どうという所ではなかったが、お昼を食べることにした。出てきた海鮮ラーメンは、ウニもカニもどっさり入って皆大満足。

帰りの飛行機の中からは頭にぽっかり出した利尻山頂を拝み、この旅は終わりとなった。



観光も含んだ山行で、それぞれいろいろ行動することになったが、何はともあれ、利尻登頂成功し、皆無事に帰って来て、おまけに大事なところの晴れ間にウニに海鮮ラーメンに、ボタンエビと大満足の山行となりました。



ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。残念ながら今回一緒に行けなかった人、次の所は

一緒に行きましょうね。

(記・濱田優美子／伊藤久雄／峯川弘子)

(写真提供・伊藤久雄、中村友子、峯川弘子)